鐵と鋼　第十二年　第一號

大正十五年一月二十五日發行

論　　說

製鐵鋼國策の根本義

河　村　　曉

製鐵鋼業が一國諸工業の基礎にして經濟上重要であるのみならず貿易の均衡並に國防上一日も忽にする事の出來ない重要なる事業たるは論を俟たざる處であつて一國產業の盛衰國防の安定に對し一片憂國の至情を懷くものその朝にあると野にあるとを問はず極めて愼重なる考慮を拂ひ永遠に亘りて最も堅實なる方策の樹立に努むるを必要とし決して一時的姑息の措置を許す事能はざる事項である然るに世間往々鐵鋼國策の何たるを解せず深き考慮を拂ふ事なく單に自己の立場や目前の小利害に捉はれて個々の立場から一方に偏した理屈を立て妄斷誹謗を事とし爲に世間に對し幾多疑惑の念を與ふるのみならず國策の進捗に對して不尠障害を與ふるものあるは遺憾に堪えざる次第であつて元來製鐵鋼國策の樹立の如き極めて重大なる問題なる丈け之が遂行を期するには官民當業者のみならず國民一般が正當なる理解と眞面目なる熱心とを以て充分援助を與へねばならぬ問題と信ずるのである。

本邦製鐵鋼國策の根本義は申す迄もなく**自給自足**の主義を擴充し外國より受くる脅威を除き市價の安定と低減とを計り諸工業の發達に資するにあつて種々なる實行方策もこの終局の目的に到達するに必要なる途行に過ぎないのである過去は暫く措き昨春開催せられたる製鐵鋼調査會に於ける調査の結果も先づ「**我國の製鐵鋼業は方法宜しきを得ば經濟的に自給自足をなし得る**」と云ふ基礎の上に之に對する種々の方策が講ぜられて居り今回片岡商工大臣の抱懷せらるる政策も亦同一の見地より發足し一層具體的の實行策に向つて進行しつゝある事は疑を容れない處である世間往々にして我國製鐵原料の不足なるの故を以て製鐵事業の獨立に對し疑を挾むものあるも過般製鐵鋼調査會に於て精細なる調査の結果を報告せられたる如く本邦及本邦勢力圏內に於ける鑛量は內地8000萬噸朝鮮約1億2000萬噸南滿州約3億噸合計5億噸であつて平均その40％の含鐵を採取し得るものとせば採取鐵量2億噸に達し年々200萬噸の銑鐵を產出するも尙ほ100年の命脈を持續し得る事明白である勿論之には運搬設備の改善撰鑛製錬法の研究等幾多の考究と施設とを要する事あるは勿論なるも近來技術の發

達の傾向は漸次之を解決する方向に向つて歩を進めつゝありて不斷の努力を續けたならば之の域に達する事も敢て困難ではない只之には相當の時日を要するから差當りの方策としては英國、獨逸、白國等の歐洲先進國の取りつゝある方策と同樣支那なり南洋なりの原料を確保して品位の高い鑛石を輸入し本邦の製銑事業を繼續して行く事が最も策の得たるものである若し夫れ國家有事の際に於ける持續に就ては內地及朝鮮の鑛石丈けでも自給し得るは勿論の事である世間或は戰時中に於ける鐵鋼の需用從て輸入を要すべき鐵鑛量を殊更過大に見積りて杞憂を抱き又は本邦の領土でもなく勢力範圍でもなき遠隔の外國領土より輸入さる可き銑鐵に對し過大の信賴を置きて之を謳歌する向あるも殆んど一顧の價値なき妄斷と云はねばならぬ又本邦石炭の價格の廉ならざるを擧げて悲觀するものあるも運賃の低減其他適當の施設を施せば之が輕減の途なきにあらず要するに鐵鑛と云ひ石炭と云ひ寧ろ我國は世界製鐵國中米英獨等に及ばざる事遠きも白耳義、伊太利等に比して遙に大なる天惠あるものと斷ずる事は敢て不當ではない又世間往々製鐵國策の何たるを解せず銑鐵事業は之を保護せざるも可なり銑鐵は之を安價に輸入して製鋼の發達を計るに如かずと說くものあるも今日我國銑鐵市價の比較的安價なる事は國內製銑事業の存在せるに依るものであつて今若し假りに國內銑鐵事業の滅亡せる場合を想像する時は印度も英米の價格に追從して高價に非ざれば輸入を見る事能はざるは火を見るより瞭かな事である即ち國內銑鐵事業を失ふ事は軈て國內製鋼業をも失ふに至る所以であつて我國策としては銑鋼は相併立して共存共榮を計る可きもので其の一を失はゞ他は存立不可能なる事は疑ない處である尙ほ少しく之を詳言せば今日我邦銑鐵の各所平均生產費は約50圓內外であつて英米物は60圓以上でなくては輸入は出來ぬのであるから今日の生產費を以て英米物に對抗する事は何たる困難はないが印度の銑鐵は常に我が生產費よりも幾分安價に輸入せられ其脅威を免れない、しかし之は國內に銑鐵の生產があつてこそ印度銑も安價に輸入せらるゝのであつて若し國內の銑鐵業が存立しなかつたならば印度の銑鐵は直に英米並の高價に引上げらる可き事必然である之は曹達灰、染料等の適例に徵しても明白なる次第である現に日本今日の銑鐵市場が相當安價なる爲に印度より輸出する銑鐵の半は米國に輸出せられて居るのみならず之の米國への輸出は次第に增加の傾向であつて何時迄も日本に安價に輸入さる事は出來ない事である加之印度でも已に百方保護を講じて製鋼業の充實擴張を奬勵して居るから何時迄も製鋼原料として此安價なる印度の銑鐵に依賴する事は到底出來ない事で印度が我國に於て年々增加する銑鐵の需用を充す丈の數量を將來輸入し得ると思ふは大なる間違である而も有事の際に於ては其輸入は全く困難である又製鋼事業に於ても今日普通の市場鋼材の內地生產價格は1噸100圓內外であつて英米物の1噸輸入價格は110圓見當であるから我國の鋼材は充分英米ものに對抗する事は出來るが歐洲大陸ものは一方爲替相場の輸出に適するものあると他方には**ダンピング**政策を行ふ事等により目下我生產費以下にて輸入するを以て大に脅威を感ずる次第で之に對しては適當の措置を取つて我產業を保護せねばならぬ斯く詮し來れば我製鐵鋼業は今や之に適當の保護奬勵を加へ自給自足の域に達せしめ將來の安全を期する事は何れの方面より見るも異論なき處であらねばならぬ然るに或る方

面にては我國の鐵鋼當業者が一向整理緊縮を行はずして専に政府の保護に依賴するものなるが如く唱ふるものあるは今日我邦現存の工場が何れも非常の努力と苦心とを以て整理緊縮を行つて居るのみならず多大の犧牲を忍びて着々設備の改善に努力しつゝあるの實狀を詳にせざるによるものであつて吾人の見解にては從來政府の保護を受くる事比較的薄きに拘はらず兎も角も今日迄維持經營せられたるは一方八幡製鐵所に對しては國民が犧牲を拂ひ他方民間製鐵所に對しては各資本家が隱忍自重したるによるものと信ずるのである現に彼の戰時中勃興したる群小製鐵鋼所は損失に堪えずして相次て倒壞したのである。

又世間往々我邦製鐵鋼業は戰時の好況に眩惑せられて叢出したもので今日の悲況は自業自得であるかの如く說くものあるも元來製鐵事業の如く大資本を要し且事業其物の性質として平時多大の利益を豫想する事の出來ない事業が金利も高く外國に比して幾多の不利ある國狀の下に平素勃興し得るの理はない加之戰時中鐵材輸入の杜絕に會し造船事業其他一般諸工業の打擊を受くる事甚しく朝野周章狼狽偏に製鐵事業の振興を翹望する事大旱の雲霓を望む樣な有樣なりし事は今尙吾人の記憶に新なる處ではないかこの意味より當業者が過去に於て時機を逸する事なく多大の資本を投じて本事業の擴充に貢獻し爾後大なる犧牲を拂つて之を維持繼續しつゝある事に對しては相當の敬意を表すべきであると思う加之一二の例外を除き今日持續せる鐵鋼業者は比較的基礎の確實なるものであつて世人の唱ふる如く**所謂救濟**を哀願するものでもなく又救濟の目的を以て保護す可きものでもないと考へる只我國の製鐵鋼業は成立の歷史新しく歐米の100年以上の歷史を有するに比し我國にては最大の官立八幡製鐵所さへ創立後25年に過ぎず其他の民間工場に至りては概ね10年內外の星霜を經たるに過ぎざるを以て經濟的獨立の域に達する迄は之を保育扶掖する必要がある故に歐米先進國の鐵鋼業が今日の繁榮を來す迄に嘗て取りたる保護政策に準し**相當の保護**を加ふる事は國家の義務であつて之の意味の保護は當業者としても之を受くるに於て少しも疾しき事はない關稅率の改正や不當廉賣の防止、鐵道運賃の低減、國產品使用の奬勵等の政策も此意味から當然生れて來る可きものである、しかし單に政府の施設のみに倚賴して民間業者が拱手其保護を受くる事は妥當ではない政府の施設と相俟つて民間でも生產費の低減と市價の安定を計り終には保護を受くる事なく自立し得るに至るの覺悟と努力とを續けねばならぬ此意味に於て原料の共同購入製品の共同販賣機關を設置し生產の分野を定め能率の增進を計り進んでは設備と組織の改善と充實とに努むる事が最も必要となるのである。

要するに外敵に對して國內共同一致の努力を要する次第であつて換言すれば官民當業者の協力一致と國民の後援とにより本邦鐵鋼業の基礎を速に獨立獨步自給自足の域に達せしめる樣切望して已まない處である其經過の狀況に應じて關稅其他の保護は漸次之を輕減して國民の希待に報ひ進んでは海外に販路を擴張して益々能率の增進と市價の低減とを計る事を永遠の理想となさねばならぬ　（完）